

研究者と話そう

■時間：14:30～15:30(予定)
 ■参加費：無料(ただし、観覧料が必要です)

国立民族学博物館(みんなく)の研究者が来館された皆様の前に登場します！「研究について」「調査している地域(国)の最新情報」「展示資料について」などなど、話題や内容は千差万別！
 どんどん質問もお寄せください。展示場でお待ちしております。



イヌイットの滑石彫刻

6月1日(日)
佐々木 利和 (先端人類科学研究部教授)
 イナウって何？
 於:アイヌの文化・日本の文化展示

6月8日(日)
森 明子 (研究戦略センター教授)
 洗濯のはなし
 於:常設展示場内休憩所

6月15日(日)
岸上 伸啓 (先端人類科学研究部教授)
 カナダ先住民のアートについて
 於:アメリカ展示

6月28日(土)
三島 禎子 (民族社会研究部准教授)
 セネガルのガラス絵
 於:アフリカ展示

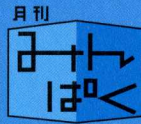
6月29日(日)
上羽 陽子 (文化資源研究センター助教)
 ラクダを育てる、売る、利用する
 ーインド西部の牧畜生活
 於:常設展示場入口

編集後記

もえぎ色の新緑まばゆい万博公園がふしぎなパワーに満たされる時期がやってきた。散り際の美学とやらではない自然の活力がみなぎるときである。民博も開館30周年の記念行事を終えて、さらなるパワーアップをはかろうとしている。そうした折、ドイツから「まれびと」がやってきた。巻頭インタビューのクライナー氏である。民博誕生に立ち合った一人からは、グローバル化する民博への示唆を数々いただいた。それと同時に、世界ひろしといえども民博だけです、こんなことができるのは、という激励も。

4月からはじまった「歳時世相篇」もおかげさまで順調なすべりだしとなっている。今月は民博ニューフェイスの一人が執筆している。おどろいたことに、日韓共催のワールドカップ・サッカーが韓国では歳時記になるほどの盛り上がりを見せているそうだ。これからもこの連載にご期待いただきたい。

もうじき梅雨の季節、立派に育った万博公園の木々にもめぐみの雨が不可欠だ。(中牧弘允)



次号予告/7月号特集
レコード

2008年6月号 第32巻第6号通巻第369号
 2008年6月1日発行

編集・発行 人間文化研究機構 国立民族学博物館
 〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園10-1
 電話06-6876-2151

発行人 西尾哲夫

編集委員 久保正敏(編集長) 佐々木史郎
 庄司博史 中牧弘允 三尾 稔
 山中由里子

協力 財団法人 千里文化財団

制作 株式会社博報堂

製版・印刷 アサヒ精版印刷株式会社

●本誌についてのお問い合わせは国立民族学博物館企画連携係へ
 ●本誌掲載記事の無断転載を禁じます



交通案内

- 大阪・千里万博記念公園内
- 大阪モノレールで「公園東口駅」・「万博記念公園駅」下車徒歩約15分。
- 阪急茨木市駅・JR茨木駅・北大阪急行千里中央駅からバスで「日本庭園前」下車徒歩約15分(茨木方面から1時間1本程度、日本庭園前駐車場乗り入れのバスがあります。詳しくは阪急バスにお問い合わせください)。
- 自家用車の場合は、万博記念公園「日本庭園前駐車場」(有料)から徒歩約5分。
- タクシーは、万博記念公園「日本庭園前駐車場」まで乗り入れてきます。